

令和 6 年度 【 学園研究費助成金＜ B ＞ 】 研究成果報告書

学部名 人間関係学部

氏名 サガワ ヨシユキ
佐川 佳之

研究期間 令和 6 年度

研究課題名 オルタナティブスクールにおける進路をめぐる教育実践に関する社会学的研究

研究組織

	氏 名	学 部	職 位
研究代表者	佐川佳之	人間関係学部	准教授

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

我が国において学校に行かない子どもが増加する中、学校制度外の多様な教育のあり方が注目されている。その 1 つとしてあげられるのが、文部科学省の学習指導要領に必ずしもとられない学習内容を特徴とするオルタナティブスクール、あるいはフリースクール（以下 AS と表記）と呼ばれる民間による実践である。本研究はその実践の中でも進路に関わる AS の教育実践に焦点を当て、①その教育実践で伝達される知識の要素の内容、②①から形成される生徒の AS 卒業後の進路の意識のあり方という課題に関して、「キャリア教育」の実践を特徴とした AS である CB スクール（仮名）の事例から考察する。この考察を通じて、近年の AS と社会の関係の再編の断片の記述を試みる。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

以上の①と②の課題について、より具体的に次のような論点を設定し、調査・研究を進めた。①については、「キャリア教育」をめぐって伝達される知識の内容が外部のどのような知識に由来し、教育実践の中に再構成されているのかを考察した上で、知識の諸要素が教育実践に関わる場や時間の中でどのように配分され、いかなる形式で伝達されるのかを分析する。②については、生徒の経歴を踏まえ、生徒がスクール内の社会関係の中で、どのように進路の意識を形成するのかを考察する。

実際の調査においては、主にスタッフと生徒へのインタビュー、および授業場面の参与観察を行った。その他、当該の教育実践に関わる文献調査、行事への参与観察も実施した。なお調査の実施に当たり、梶山女学園大学人間関係学部研究倫理審査委員会の承認を得た。

3. 研究成果の概要（600 字～800 字程度で記述）

2. 研究の推進方策で記した①の論点に関して、CB スクールのスタッフ 1 名へのインタビューなどで得た資料、及び本研究課題の開始前に収集した資料をもとに、バジル・バーンステイン（訳書 2000, 第 1 章）の〈教育〉コード(pedagogic code)論の視座から、個人事業主を目標とするカリキュラムと教育実践の特徴を考察した。

日本教育社会学会第 76 回大会にて報告した、その成果の一部を要約する。〈教育〉コード論の主要な概念として、カテゴリー間の関係を表す分類と、コミュニケーションの統制を表す枠づけがあげられ、それらはそれぞれ外部と内部に対して強弱の値をもち、精密な方向づけを規定する（Bernstein 訳書 2000, pp.41-56）。報告では、これらの概念を参照しつつ、CB スクールの〈教育〉コードの記述を試みた。具体的に、分類に関しては、カリキュラムにおけるアルバイトの位置、科目、スタッフと生徒、時間に着目し、同スクール内外のカテゴリー間の様態を記述した。また枠づけについては、外部の社会とのつながり方の統制の要素、及び内部の分析では、バーンステイン（訳書 2000, pp.50-53）のいうコミュニケーションの選択、順序、ペース配分、評価基準、伝達を可能にする社会的基盤の 5 つの要素に着目し、それぞれの枠づけの特徴を抽出した。ここから個人事業主という進路と生き方を方向づける同スクールの〈教育〉コードを示すとともに、スタッフの視点の分析からの解釈であるが、生徒による〈教育〉コードの獲得に同スクール入学前の AS での学習経験が作用する可能性にも言及した。

その他、この報告の分析を精緻化するために、2024 年 9 月以降、授業の参与観察も行った。また研究の推進方策の②の論点に関しては、3 名の卒業生に対して、インタビューを実施した。

【参照文献】Bernstein, Basil 1996 *Pedagogy, Symbolic Control and Identity* Taylor & Francis（＝2000 久富善之他訳『〈教育〉の社会学理論：象徴統制、〈教育〉の言説、アイデンティティ』法政大学出版局）

4. キーワード（本研究のキーワードを 1 項目以上 8 項目以内で記載）

①オルタナティブスクール	②キャリア教育	③〈教育〉コード	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望（公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表タイトル、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。）

●研究成果

<学会発表>

佐川佳之「オルタナティブスクールにおける「キャリア教育」の実践に関する事例分析」日本教育社会学会第 76 回大会，2024 年 9 月 14 日（信州大学）

●今後の展望

学会報告以降で実施した調査および研究期間終了後の追加調査を踏まえ、学会報告の内容を精緻化し論文にすることが目標である。また 2 の研究の推進方策に記載した②の論点の調査・研究については、本研究期間終了後も継続する。